

柔道整復科

運動器・下肢

対象	1年次	開講期	前期	区分	必	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	青木伊之			実務経験	有	職種	柔道整復師（接骨院にて勤務経験あり）				

授業概要

外傷を学ぶ上で欠かすことのできない運動器の基礎について学ぶ。

到達目標

柔道整復師として必要なレベルでの、下肢の各々の骨格、筋の構造とその三次元的イメージの構築、骨と骨との連結（関節）の構造と機能、それらが構成する下肢の全体構造とそれらの立体的な構成を説明できるようになることと、骨格筋の起始、停止、支配神経および作用を理解し、各器官を機能と関連づけながら統合的かつ三次元的に説明できるようになることを到達目標とする。

授業方法

プリントと模型を用いる。下肢の運動器について、骨構造、骨格筋の配置、起始、停止、支配神経、作用を正確に理解し、関節がどのような構造を持ちどのような作用があるのかを模型を用いながら具体的に理解するよう、授業を進める。併せて骨格筋の支配神経、関節機能の調節機構について理解を深める。

成績評価方法

試験と課題を総合的に評価する。

履修上の注意

柔道整復師の仕事の根幹を成す知識なので、丁寧に且つしつこく、理解出来るまで反復することが必要である。また、医療人としてのキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

教科書教材

医歯薬出版解剖学改訂第2版－社団法人全国柔道整復学校協会 監修－に準拠する。

回数	授業計画
第1回	下肢の骨
第2回	骨盤
第3回	大腿骨、膝蓋骨

柔道整復科

運動器・下肢

第4回	脛骨、腓骨
第5回	足根骨、中足骨、指骨
第6回	内寛骨筋
第7回	外寛骨筋
第8回	大腿の伸筋□屈筋
第9回	大腿の内転筋
第10回	下腿の筋
第11回	足の筋
第12回	股関節
第13回	膝関節
第14回	足の関節
第15回	運動器・下肢のまとめ